



「イメージョン（没入法）教育」に想う

外国語の学習方法の一つに「没入法」がある。

子どもは、あいさつ、そうじ、靴揃えさえできれば、99.9%まともに育つと言われているが、これらは日常的に学校や家庭等でイメージョンされて身につくものなのだ。イメージョン環境をどう作るかが校長の腕の見せ所だ。
(副会長 水谷 大)



大量退職・大量採用時代と 働き方改革

いわき市小学校長会

会長 水野 達雄

新しい元号「令和」がスタートして2ヶ月が過ぎました。各校では、学校経営ビジョンの下、それぞれの学校が抱える教育課題をとらえ、校長先生がリーダーシップを発揮しながら、その解決に向けた取組みが進められていることと思います。また、研究部及び専門委員会委員長の校長先生方を中心に第48回福島県小学校長会研究協議会いわき大会の準備・運営、ありがとうございます。

さて、大量退職・大量採用時代が到来しました。過日公表された報道によると、令和2年度の福島県教員採用試験の小学校教諭の志願者数は、採用予定数が300人に対し541人で、倍率は2倍を切って1.8倍ということです。前年度は、採用予定数が240人に対して志願者数が639人で倍率は2.7倍でした。問題は、前年度に比べて採用予定数が60人増えているのに対して、志願者数が逆に98人も減っていることです。学校現場にとっては恐ろしい現象といわざるを得ません。そんな中、初任者研修ではメンター方式が導入され、学校現場のOJTによる研修が求められるようになりました。今、喫緊の課題は、教師になる優秀な人材の確保です。

折しも、1月25日に中央教育審議会から「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」が答申されました。学校における働き方改革の目的は、教師のこれまでの働き方を見直し、教師が我が国の学校教育の蓄積と向かい合って自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることです。その背景には、今この取り組みを進めなくては、高い効

果を上げてきた我が国が誇る学校教育が崩壊してしまうのではないかという強い危機感があります。社会全体として労働力人口の減少が見込まれている中で、各分野において人材獲得競争ともいえる状況が生じており、本県においても上記のように教員採用試験の倍率が年々減少し、2倍を切る危機的な状況です。一方、学校現場は、ブラック企業と揶揄されるように、教師たちが歯を食いしばって頑張っている状況であり、能力のある若い人材が、そうした状況も見据えながら教師の道を選ばないという悪循環が生じています。そして、こうした状況に一番影響を受けるのは何よりも教育を受ける子どもたちです。

先日、全連小の理事会・総会に参加する機会があり、その研修会の中で、文科省初等中等教育局の合田哲雄財務課長さんから、次のような話がありました。

「日本中が人手不足に陥っている。今、企業は仁義なき戦いで人を取ってきている。ある企業は、小学校の先生になろうと教育学部に入ってきた学生に対し、4年生の早い段階で内定を出す条件として、教育実習に参加しないという念書を書かせている。それに対して、今、働き方を変えてでも、志があって能力のある若者に教育界に入ってもらわないといけない。」

このような危機的状況を鑑み、いわき市小学校長会としても、各校長が自校の教育活動を再度見直すとともに、校長会が主催している各種行事についても、働き方改革の視点から知恵を出し合いながら再検討し、先生方が、子どもたちのために授業の質を磨くことに全力投球できる環境を作っていきましょう。

新 会 員 の ひ と こ と

～ともに一枚岩の担い手として～

家庭と地域とともに



児童199名の大浦小学校と園児36名が在籍する四倉第二幼稚園の校長兼務園長を拝命し、子どもたちの命をお預かりしていること、また、そのお預かりした子どもたちを育てていくことの重責を実感する毎日です。

親子三世代のご家庭が多く、「大浦の子どもは地域が育てる」という思いの強い本校においては、「米作り」の学習では多くの保護者の方が子どもたちに手ほどきをしたり、プール清掃では町の消防団の方々が保護者とともに協力したりなど、学年や学校行事に多くの皆様が積極的に参加していただけます。これは、これまでの歴代校長先生をはじめお勤めいただいた先生方が、学校へ寄せられる期待に対してしっかりと応えてきたからこそこの連携であると思います。

簡単なことではないと重々承知してはおりますが、子ども、保護者、地域そして教師、それぞれの立場の視点に立ち、引き継がれてきた学校への信頼、そして連携をつなぐことができるよう、校長として、誠心誠意取り組んで参りたいと思います。 (大浦小 小玉 則子)

誇りと自信



本校の児童は、東西と北の、三方向から登校します。このうち、東西からやって来る子どもたちは、正門を通り校地に入ります。一見当たり前の光景ですが、正門を通ることは、子どもたちにとって少しだけ「遠回り」になります。しかし子どもたちは、この「遠回り」を少しも苦にしていません。歴代の校長先生方によって培われた本校児童の折り目正しい姿が、よき伝統として根付いていることに、深く感謝いたします。

新任校長としての学校運営は、毎日が手探りの状態ですが「自立(自律)と尊重」を理念として取り組んでいます。やがて大野の地から羽ばたいて行く子どもたちが誇りと自信をもって自分の力を発揮できるよう、力を尽くしたいと思います。また教職員自身も、自己実現や資質向上に主体的に取り組めるよう、支援していきたく考えています。

これまで大野第一小学校に関わってくださった方々の思いを大切に受け止めつつ、よりよい学校づくりができるよう精進いたします。ご指導よろしく願い申し上げます。 (大野一小 四家 知美)

雨に嵐に負けぬよう



雨に嵐に 負けぬよう
しっかり大地 ふみしめて
郷土のあすを になうもの
進もうわれら たくましく

これは、本校校舎の壁面のステンレス壁画に、フタバズキリュウとともに刻まれている言葉です。本校で学ぶ子どもたちの決意であるとともに、地域の人々からの子どもたちへの応援メッセージであると思っています。

私自身もこの言葉のように、ぶれない心を持ち、じっくりと落ち着いて物事を判断し、目先のことだけにとらわれず先を見通して、自信をもって堂々と学校経営をしていきたいと考えております。

しかしながら、経験が浅く、知識も十分に身につけていないため、今後、指導の仕方や判断に迷う場面もあるかと考えられます。これまでよりもさらに適切な指導や正しい判断ができるようになるためにも、いわき市小学校長会で多くのことを学んでいきたいと思っております。

新入会員として、みなさまからのご指導をいただきながら、校長として、さらに会員としての責務を果たしていきたいと考えます。よろしく願いいたします。

(久之浜二小 片寄 敦)

「それゆけ! 桶売もりあげ隊」



着任して2ヶ月が過ぎました。学校経営方針を保護者や地域の皆様にお話しする度に校長としての責任の重さをひしひしと感じています。

昭和20年代後半には全校児童が400人程だった桶売小学校も現在は全校児童が6名。急激な地域の少子高齢化が進んでいます。道行く車の八割が「モジマーク」付きというのも決して冗談ではありません。今年の総合的な学習の時間のテーマは、「それゆけ! 桶売もりあげ隊」。学校、地域の未来に危機感をもっている児童の「桶売のよさを発信したい」「桶売を守りたい」という純粋な思いを出発点に、自分たちで町おこしをしようという壮大な計画です。先日は偶然鬼ヶ城にいらっしやった市長さんにアンケートをお願いするほど、真剣にそして主体的に取り組む児童の姿が見られます。

そうした児童と響き合う様に、地域を舞台に「ひと・もの・こと」に主体的・継続的に関わり、課題解決する力を育てていきたいと、若い職員たちも議論を重ねています。担任のみならず、栄養教諭、養護教諭も参加しての白熱した話し合いに、いつの間にか加わっている校長です。学校から地域に「元気」をお届けできたらと夢は広がります。 (桶売小 遠藤 修)

一人一人に寄り添った教育を



矢大臣山をはじめとする山々に囲まれ、雉の鳴き声が聞こえる自然豊かな小白井小・中学校に赴任して、「学校は楽しい」ということを再確認しました。子ども達の声が聞こえる校舎、校庭で遊ぶ子ども達の姿、運動会等の学校行事、おいしい給食…、学校では当たり前光景に接し、素直に喜びを感じました。

小白井小・中学校は、児童生徒5名（小学生2名、中学生3名）の小規模校です。4月の職員会議で先生方に「児童生徒5名という少人数のよさ（強み）を生かし、児童生徒一人一人に寄り添った教育を」と話をしました。本校は、児童生徒一人一人に寄り添った教育ができる環境にあります。小白井小・中学校だからこそできる一人一人を見取り、よさを伸ばす教育を、「チーム小白井」として教職員が一丸となって、実践していきたいと思っています。

とは言いましても、新任校長、校長1年生。いわき市小学校長会の先輩の皆様のご指導をいただきながら、児童生徒“一人一人に寄り添った教育”が実現できるよう努めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(小白井小・中 鈴木 喜克)

感動・感激・感謝を胸に学力・心力・体力向上！



ウグイスやキビタキがさえずる緑豊かな山に囲まれ、いわきの爽やかな風が吹く綴小学校に着任し、毎日が新しい発見の連続です。まっすぐな瞳で目を見ながら真剣に話を聴く子どもたちに感動。児童の様子・授業の進め方について熱く語る教職員に感激。保護者・地域の皆様の学校に寄せる協力を感謝。学力・心力・体力向上のために、子どもたち一人一人をどのように向上させていくのか。どのような取り組みをしていけばよいのか、日々考えています。

先日、綴小学校 PTA主催の歓迎会が内郷駅前のレストランで開催され、後援会長・PTA会長のリードのもと、とても（×3）盛り上がりました。小規模校といえども、この『つづらパワー』に、驚かされたと同時に、保護者の大きな期待感に背筋がピンと伸びたことを覚えています。

児童・保護者・教職員の『チームつづら』で地域に貢献し、地域から愛される学校づくりをモットーに真摯に取り組んで参ります。方部校長会、市小学校長会の皆様にご教示をいただきながら、いわき市の子どもたちのために頑張っていきたいと思っておりますので、何卒ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(綴小 玉木 敏彦)

「小規模であることを強みに」



常磐高速道路の茨城県との県境付近で西側を眺めると田んぼの中にポツンと一校小さな学校があり、その屋上には「勿来三小」と書かれた大きな看板が見えます。いわきの人なら一度は目にしたことがある風景だと思います。

さて、勿来三小は、現在教職員12名、全校児童44名のとても小さな学校です。特に今年度は、昨年度より児童数は8名減り開校以来最も少ない児童数となり、2・3年生は複式学級という状況です。この現状に、着任した当初、保護者、地域の皆様からたくさんのご心配のお声をいただきました。しかし、この状況を悲観するのではなく、小規模であるからこそできることは何かを考え、小規模であることを強みにした学校を教職員と力を合わせ、家庭や地域との連携を大切にしながら作っていきたいと思います。それこそが、縁があってこの学校に着任した自分の役目であると考えます。そして、これからはあの「勿来三小」と書かれた大きな看板の下で、将来、社会に貢献する自立した大人になれるよう、子ども達を育てていきたいと思っております。校長会の皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(勿来三小 草野 秀一)

「八潮見城登山」に思う



歴史と伝統のある上遠野小学校に新任校長として着任し早2ヶ月が過ぎました。少しずつ学校や児童のこと、そして地域の特色等が見えてきたような気がします。

そのような折り、縦割り班での全校遠足「八潮見城登山」を実施しました。その行事を通して160人の児童たち、そして私自身も新たに多くの事を学びました。

坂道で見守ったり、登山道にある木の根を避けるために手を差し伸べたりして低学年をケアする高学年児童、遺構である土塁や石垣、堀切等について児童たちに丁寧な説明をしてくださるボランティアの皆様、そしてその説明を真剣な表情で聞く中学年の児童たち…と、心温まる場面を何度も目にすることができました。

山頂からは、遠く東側に太平洋が見えました。「八潮見」の由来ともなった場所から海を眺め、山城として機能していた往時を偲ぶことができました。

校長として「上遠野小ならではの」教育を実践して、「遠野町を誇りに思う」児童を育てなければなりません。「八潮見城登山」はその第一歩になりました。私自身が遠野町をもつと知り、好きになって、その魅力を児童たちに伝えていきたいと強く考えています。

(上遠野小 大沼 廣記)

各専門部の活動

行財政部

部長 坂本 貴洋

県及び市小・中学校長会の活動方針・重点を踏まえ、教育諸条件の整備充実のため次の活動を推進します。

- 1 調査研究に関すること
 - 教育行政に関すること
 - 教職員人事の基礎資料・配置に関すること
 - その他、県小・中学校長会の諸調査に関すること
- 2 提言活動に関すること
 - 教育行財政のための資料作成に関すること
 - 教職員人事に関する各種提案・提言に関すること
 - 関係機関に対する各種提案・提言に関すること
- 3 その他
 - 県行財政部との連絡調査、支部会の開催・運営

研究部

部長 岡 亮

今年度も、県の研究主題を踏まえ、市校長会研究部の活動目標の達成に向けて、質の高い研究を推進し、校長としての識見・力量を高めていきたいと思ひます。

研究の手順としては、これまで通り、

- ① 組織的・計画的に研究
 - 5つのブロックに分かれ、主体的に取り組む。
 - ② 研究の成果を共有し、校長の資質向上へ
 - 報告書や提言書で他ブロックの研究を共有する。
 - ③ 自校の組織に研究の成果を浸透
 - 全職員に、学校経営・運営への参画意識を高める。
- という順に進めていきます。
- なお、7月の県の研究協議会いわき大会の運営へのご協力をよろしくお願ひします。

広報部

部長 御代田光史

本年度もいわき市の小学校教育活動の充実のために、広報活動を通して寄与することを目的に活動します。今年度より経費の関係上「広報」の発行を7月と2月の年2回とし、市小学校長会活動目標や県や市の施策に沿った教育活動、各方部の特色ある教育活動の取り組みなどを特集記事に取り上げる予定です。

本年度の各号の発行予定と主な内容については、次のように計画しています。

- ◎第344号（7月）
新入会員の抱負、各専門部の活動計画等
- ◎第345号（2月）
特集、各方部の活動状況等

生徒指導部

部長 上遠野公男

当面する生徒指導上の課題を解決するため、計画的、継続的な活動を推進します。

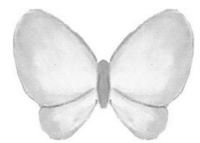
- 1 児童の問題行動等の実態把握のため必要に応じて調査分析を行い、その解決の方策を練り、共有する。
- 2 児童・生徒に関わる事故や問題行動等の未然防止、早期発見・早期解決に向け、市教委・教育事務所・警察等の関係機関やその他、諸団体との連携を図ると共に、小・中・高校間で情報を共有し、指導にあたる。
- 3 望ましい生活習慣を身につけさせるため、小・中学校及びPTAと連携して指導に取り組む。
- 4 いじめ・不登校等、学校生活・家庭生活における悩みや不安を抱えた児童及び保護者に対し、SCやSSW等の専門家や関係機関等とその解決に向け連携を図る。

事務局だより

幹事長 高野 淳一

『ともに学び、考え、行動する校長会 いわきの未来を担う心豊かでたくましい子どもたちの育成に向けて』を活動目標として、今年度のいわき市小学校長会がスタートしました。様々な課題に直面している今こそ、会員が心をひとつにして、その解決に取り組んでいきたいと思ひます。各方部そして、市全体の連携・協力を深め組織的な活動を実践していきたいと思ひます。

- 1 第48回福島県小学校長会研究協議会へ向けて
 - 間もなく、いわき大会を迎えることになりました。いわき市小学校長会の組織力を生かし、大会の充実と成功を旨したいと思います。よろしくお願ひします。
- 2 東北連小・全連小への参加について
 - 今年度は、東北連小・全連小秋田大会（10月17日・18日）になります。いわき支会からは、全連小理事の会長を含め13名での参加となる予定です。



編集後記

市小学校長会「広報」は今年度より、年2回の発行となりました。1回目となる、第344号は新会員の校長先生方の「抱負」を特集しました。各校長先生方の学校経営に対する熱い思いや願ひがひしひしと伝わって参りました。8名の校長先生方と共に、市小学校長会が縦と横のつながりを強め、益々発展していくことを願ひます。
(汐見が丘小 山本 巖)